



### 管理者研修のことなど

(一)

今年も残すところあと一ヶ月となりました。

この時期、当法人の各施設においてはクリスマス行事が続きますが、東京においても、この時期には、毎年、牧ノ原やまばと学園のためのクリスマスチャリティコンサートが開かれてきました。主催者は、「ぐるうぶすみつの石」で今年で第五〇回目。今回は、十二月十六日(金)、十八時から霊南坂教会で開催されます(詳細は、六ページのチラシをご覧ください)。

実は、先日、主催者の「ぐるうぶすみつの石」代表、飯靖子さんから、「仲間と話し合った結果、今回をもって、この活動を終わりにすることにしました。勿論、これからも、皆さんの働きを応援しますが、…」という連絡をいただいたのでした。そういうわけで、第五〇回クリスマスチャリティコ

発行  
社会福祉法人 牧ノ原やまばと学園  
〒421-0412 静岡県 牧之原市 坂部 2151 番地 2  
TEL:0548-29-0221 FAX:0548-29-0157  
E-mail:honbu@yamabatogakuen.jp  
http://www.yamabatogakuen.jp/  
機関誌代は無料です。



ンサートは、最終回ともなります。一抹の寂しさを感じると同時に、約半世紀にもわたってこの活動を続けて下さった皆様(飯靖子さんも、そしてたぶんその仲間の方たちも、学生の頃から、就職、結婚等を経て、中高年の今に至るまでご協力。近年は、息子さんの顕さんなど若手の方たちも参加)そして、オルガニストの吉田實先生(故人)や、飯清牧師(故人)など多くの方々との出会いやご支援があったことを思い、ただただ、

から寄せられた暖かい出会いや助けは、私どもにも、様々の変化を乗り越えさせる力や希望を与えたと言えます。「ぐるうぶすみつの石」の皆様の今後の歩みが祝されますよう、そしてまた、その他大勢の、支援者の皆さまの新年の歩みが祝され

初対面の席で、私は「長期計画

感謝の気持ちで一杯になります。やまばと機関紙を紐解いてみると、「ぐるうぶすみつの石」による『クリスマスコンサート』のニュースが初めて紹介されたのは、一九七七年一月一日号で、「十二月二十一日、東京砦区民会館で開催」、「暖かな気持ちでステージと聴衆を包んでおりました」とあります。そして、翌年一月一日号のあとがきには、こうあります、「師走の初め、十八歳と十九歳の園生二人と共に、クリスマスコンサートに招かれ出席。演奏者手づくりの花束を胸に、暫くの時を暖かいものに包まれて過ごしました。(…中略)ただ感謝!感謝あるのみです」。

まずよう、お祈りいたします。(二) さて、牧ノ原やまばと学園では、この六月以来、管理者を対象にした「中・長期計画策定」の学びを、毎月一回継続して行っています。これに取り組んだきっかけは、全国社会福祉法人経営者協議会(経営協)が、セミナー等を通して、「中・長期計画策定」の重要性を強く伝えていたことがあります。実は私自身は(同様の研修を受けたことはありませんが)、十年位先の長期計画を立てても、激変する時代の中で計画通りにいくことはほとんどなく、あまり意味がないのではないかと。むしろ、五年位先の計画を立て、それを更新していった方が、現実的で有効なのではないかと考え、長期計画にはあまり関心がありませんでした。しかし経営協でこの取組をかなり推進していたこともあり、自分の考えは別にしても、管理者たちは一度は学んだ方がよいと思いい、「適切な講師」について、佐々木炎理事(法人福祉アドバイザー)に相談したところ、田島誠一先生が紹介されたのでした。(聖隷福祉事業団、社会事業大学教授を経て、東京YWCAヒューマンサポートセンター理事長)

策定」に関する自分の疑問をぶつけたところ、「確かに、周囲の状況は変化し、計画通りにいかないこともしばしばだが、長期計画を立てるにより、どこをどう変えるべきか判断し易いし、ゆきあたりばつたりの事業にはならない」といったご返事をいただきました。

研修期間については、当初は二日間程度の学びを予定していたのですが、田島先生と話し合っているうちに、それでは不十分なことが分かり、「やまばと五〇年の棚卸しをしようではありませんか」という先生のことばにも魅力を感じ、結局、二年間にわたる研修になりました。

しかし、福祉施設管理者たちは、知的学びに没頭できる大学生や研究者と違って、ご利用者や職員、ご家族や行政等との対応に追われ、予期せぬトラブルにも対処しなければならぬので、せっかくの研修も時には負担になったりすることもあります。そういうわけで、管理者たちを見守り、研修の状況を観察し、受講生たちの感想も聞きながら、次年度の予定を決めたいと考えています。

開講して五か月経ったところですが、よかったことは、この研修を通して、「改善すべき」課題が幾つか見つかったことでしょ。

例えば、その一つに、「同性介護」という課題があります。障害者施設や高齢者施設において、特に入所施設において、この原則が必ずしも守られていないことが判明しました。にもかかわらず、「人が確保できないからやむをえない」といった思いの中で、改善のため努力することもなく今に至っている現実だということも。……

「女性の皆さんは、男性に介護されたいですか？これは、一種の性的虐待とも言えるのでは？」という田嶋先生の指摘に、改めて、えっと思ひ、この課題の重大さを再認識させられた次第です。

今は、この課題解決のために歩み始めたばかりですが、これ以降の進捗状況を、よい形で報告できますよう願っています。

いずれにしても、「同性介護の実現」が中・長期計画を検討する中で取り上げられることになったのは、ご利用者のためにも、いづれ施設を利用することになる人たちのためにも有益だろうと思います。いろいろな困難がありますが、確実に具体化できるよう、皆で力を合わせたく思います。

### (三)

最後に、二〇二二年も終わりに近づき新年が迫っていますので、

牧ノ原やまばと学園の新しい営みのために心に刻んでおきたい、二つの言葉をご紹介しましょう。

ひとつは、「必要な事柄においては一致を、多様な事柄においては自由を、万事において愛を」。

これは、カトリックの司祭が、カトリック学生連盟の若者たちに送った言葉とのこと。元々は別の誰かがラテン語で語ったものなのですが、正確な語源は不明です。

私たちの仕事は、様々の個性や賜物を持った人たちが、一緒になつて築き上げていく仕事であり、一人一人の自由が保障され、尊重される必要もあります。一方、自由な一人一人でありながら、一致すべき時には一致し、力を合わせていく必要もあります。自我が強い人間同士ですから、時に競つたりますが、そんなときこそ、愛の源である神さまに助けていただき、万事において、お互いの間に愛が流れているような、そういう共同体でありたいと願うことです。

もう一つは、会合の初めに想起すべき言葉として、これまでも活用してきた、次の言葉です。

「討論の目的は、他の人々の上に権力をふるうことではなく、他の人々と『共に』力を蓄えることである。

会議の目的は、独断を主張して他の人の頭を打つことではなく、経験を分かち合つて、真理を見つけていくことである」。

非暴力と国際平和のために尽くした活動家、ミリュエル・レスタター女史の言葉なのですが、私たちも、有意義な話し合いができるよう、今後も心に刻みたく思っています。

※ミリュエル・レスタター女史

一八八三年—一九六八年。英国の裕福な家庭に生まれたが、貧民街として名高かったロンドンのボー地区にキングスレーホール（地域福祉の拠点施設）を開設。妹のドリスと共に、貧しい人々の福祉向上のため働いた。第二次大戦後は、国際友和会（非暴力で、キリストの和解の精神によって、戦争の絶滅と、平和づくりを旨とする団体）のメンバーとして活躍。七回来日し、多くの人々に影響を与えた。



## 教会と地域社会

山野 貴彦

## はじまりの教会

「教会」という単語について一般的な辞書をひもとくとおおよそ「共通の信仰を持つ人々の集まり・共同体」「礼拝などを行うための建物」といった説明が記されています。もちろんその記述は誤りではありません。しかし教会はこの定義のみで説明されるのでしょうか。

教会は十二弟子たちや使徒パウロらが形成した共同体に由来するものですが、その理念はナザレのイエスがガラヤで持たれた人々とのまじわりに始まると考えることに異を唱える人はいないでしょう。そのまじわりには多種多様な人々がいました。

飼いのいない羊(マルコ6:34)のような状態になっていた群衆がイエスのもとに集い喜んで教えを聞いていたことが福音書にしばしば言及されています。またイエスは、当時律法の穢れの規定に抵触するような状況にあると考えられていた人々あるいは何らかの罪を犯したと評される人々(病に罹った人々、身体に不自由な箇所を持つ人々、悪いあるい

は穢れた霊に憑かれたとされる人々など)に積極的に触れておられました。その人々はイエスのもとに集ったとき、「律法が定める共同体の外へと排除される存在」ではなく、「神のもとにあつて受け入れられている存在」として新たにされました。イエスからの癒しを経験した人々はある者は彼のもとに留まり、ある者は社会とのかかわりや家族との関係の再構築へと旅立ってゆきました。この世のすべては被造物でありこの世界は神のもとにあつて本来は調和したものである、イエスはそれを自身のみ力でもつて示されたのです。

## 「集い」の建物

いわゆる「聖と俗」を分離しないイエスの姿勢は、会堂を舞台とする物語において端的に見られます。会堂を意味する代表的なギリシャ語のひとつに「シュナゴーゲー」という語がありますが、その原義は「集い」です。つまり会堂は集いの場であるということですが、そこは安息日に律法の朗読や教育が行われる場でも

ありました。それを根拠に一部の律法学者たちは、聖なる礼拝を行うために律法違反の行為がそこで生じないようにと厳しい管理をしていたようです。それは安息日に会堂で癒しや悪霊追放を行ったイエスに対する批判の中に垣間見られます。しかし会堂は、後世のユダヤ教において「民の家」と呼ぶ人がいたように、本来人々のために開かれた場所でありました。イエスはまさに「民の家」としての集いという根本的な理念を既に示しておられたのです。聖なる空間として場所を区切り誰かを除外するのではなく——すべてが神によって創られた世界なのですから——

聖俗といった差別構造が形成されるのではない、あらゆる人が神の恵みに気がつける場所としてある、それがイエスのお示しになった「集い」であり、それがイエスから示された活動を継承するキリスト教会の理念ではないでしょうか。とすれば、教会は地域社会から距離をとって存在する聖なる孤高の建物ではなく、地域社会の中にあつて人々が集い、様々なまじわりを持つ、そのための建物ということになりましょう。実際、海外の教会に行くと、その入口に地域の様々な行事のお知らせや教会が独自にあるいは他の団体とともに催

すプログラムのお知らせが掲示板に貼り付けられているのをよく見かけるものです。

## 教会の理念と福祉的はたらき

聖餐式において最後に「ハレルヤ、主とともに行きましょう」「ハレルヤ、主のみ名によって。アーメン」と唱えるのも、神を想い聖書の教えに学び生きる者たちが集って祈りを献げ、福音を通してあらゆる人々がともに生きることができるようになるために、また、悩み苦しむ人たちの声を聴きとともに在るために、さらにはまた、様々な人々との出会いを通して自分自身もまた日々あらたにされるために、再び社会における日々の生活へと遣わされてゆくことを意味しています。

人間生活の根幹に深くかわる福祉のはたらきはまさに、地域社会の中にある教会共同体のその理念と重なるもので、キリスト教と福祉活動は歴史的に常に密接なかかわりを有し続けています。日本においてもその協働の可能性が神のみ恵みのものとますます高まってゆけばと思います——「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それはきわめて良かった」(創1:31)。



### 法人本部自由研究をはじめ

法人本部 伊故海恵子

「電子レンジの水では、植物は育たない」ということを聞き、試してみようということになりました。

日野草を使って「ポットで加熱後冷ました水」を与える鉢と、「レンジで加熱後冷ました水」を与える鉢を用意し、約2ヶ月間観察することになり、8月6日からスタート。但し、実験用の日野草はもともと大きさが違っていたのですが(レンジ水の植物の方が大きい)、「厳密なことと言わない(言えない)」ということとで、実験が始まりました。

暑い中、本部職員が日替わりで水やりを行った結果、1週間経過すると、レンジ水の鉢には、沢山の小さな紫の蕾が出てきました。しかし、ポット水の鉢には進展がありません。葉は沢山出ているのにどうしてなのかわかりません。もともと苗が弱っていたのかな?と心配してい



た所、経過2週間、ポット水の鉢にやっと蕾が5つ程出てきました。さらに水やりを続けたところ8月26日、

両方の鉢に花が咲きました。ポット水の鉢には鮮やかな濃いピンクの花、レンジ水の鉢には薄紫の小さな花が咲きました。

9月後半〜10月中旬迄は、どちらの鉢も花が落ち、別の所から蕾が出ては花が咲くの繰り返しです。レンジ水の鉢には小さな紫の花が多く咲き、ポット水の鉢には大きめのピンクの鮮やかな花が咲き続けたので、「やっぱりポット水の方が美しい花を咲かせる」と思うようになったのですが、実は、二つの苗はもともと



品種が違っていたことが判明し、「なぐんだ」ということになりました。

厳密な実験とは言えませんが、到達した結論としては、「電子レンジの水でも植物は育つ」ということ。ポット水でもレンジ水でも、発芽、開花率はさほど変わりはないということでした。

日野草の観察は終了しましたが、玄関に置いた事で、来客の方や他事業所の方々、職員から、「これは何ですか?」と質問され、笑顔のコミュニケーションが始まり、訪れる方々との交流が広がったのは、うれしいことでした。

(事務員)

### 地域のために出来ること

ケアセンター花も 野深かな美

私たち事業所の有志が年に一度「優勝するぞー」とメラメラ闘志を燃やすのが地域のかかし祭りです。なぜ入賞ではなく優勝なのか?それは同じくかかし出展する高齢者部門のグレイスやすずらんに対するライバル心もありますが、順位があがるごとに賞品の新米が多くなるからです!

あれは五年前、ミニオンを出展して優勝した時のことです。思いがけず役員の方が声を掛けてくださり、表彰式に出席させていただくことになりました。六位くらいから発表され、受賞者は前に出て賞状と賞品をいただいたのですが、上位になるにつれ、米袋が大きくなることを知りました。また、受賞者は福祉施設と保育園以外はお祭り関係者の方々だということも知りました。

今年の法人の新年度研修では、地域共生社会のために自分たちができることを考えました。研修時の私のノートには「ワーキングプアや引きこもり、孤立している人たち」「地域課題を共有して色んな人と考え



る」SDCA」等書いてあります。私が最も惹きつけられたのは「自分でできることから 笑顔で挨拶」という一文です。この言葉によって、難しいことではなく、少しの努力でできることをやってみようと思いい立ちました。

前述のとおり、かかし祭りに出展するのはお祭り関係者の方が大半です。私は参加者の層を広げ、お祭りをもっと盛り上げたいと思い、今年には推しキャラの等身大フィギュアを作りました。(残念ながら本物に似せられなかったので、「そのコスプレをした人」という設定でしたが)これを見て「私も作りたい!」と思う人が出てきたら嬉しいです。夢は老いも若きも幼きも参加するお祭りです。海外のかかしも登場したら面白いです。聖ルカホームの趙さん、セブティさんも参加しませんか?この誌面を通してお誘いします。

(生活支援員)

### クラスタ―応援

ホッとスペース中原 伊藤安司

私は、「NPO法人ホッとスペース中原」の職員ですが、8月5日〜8月12日まで特別養護老人ホームグレイスにおじゃましました。それは私の法人の代表である佐々木炭から「グレイスでクラスタ―が発生し、職員十名陽性となったためヘルプに行って欲しい」ということでした。

私は自分の一週間の勤務変更を調整し、その夜に牧ノ原やまばと学園に伺いました。

初日、山脇施設長に「夜勤でもなんでもしますよ。」と伝えると、施設を案内して利用者情報を詳しく教えてくれたり、その日から夜勤に。

翌日には利用者1名とリーダー職員が陽性者となり、ユニット職員全員が待機者となるなか、私は他のユニットや高齢者施設、障害者部門の職員の方々など、法人をあげてのサポーターたちと一緒に感染者のケアをおこないました。

今回の働きで強く感じたことがあります。職員が他のユニットの利用者を良く知っていて連携していることです。一人一人をよく観察し、笑

顔や痛み、表情、活動状況などが丁寧に記録に書かれていました。日誌が記入されていることで、初めての自分であっても安心して継続的な介護をすることができました。利用者の暮らしを支えるために施設全体で日ごろから取り組んでいる姿勢に学ばれました。また法人の職員が完全防備をし、汗を流しながら感染のリスクを冒しながらもレッドゾーンに自分の身を呈して働く姿に励まされました。

実は私は7月上旬にコロナ陽性となり、職場が大混乱しました。管理者である私が陽性となり、「どうしてこの自分が・・・」と痛恨の極みでした。自身を呪いもしましたが、陽性になった自分だからこそコロナに痛む隣人になろうという動機が与えられ、今回の働きができたのだと思います。

自分が感染してしまったという痛みが、他者のために用いられ、私は癒され、余りある恵みを受けとりました。万事が益となったことを実感し、良い機会となったことを感謝しています。

※一週間夜勤のみ担当し続けて下さった伊藤様と派遣元の「ホッとスペース中原」様に心から感謝しています(職員一同)

### 聖ルカホーム花壇整備について

聖ルカホーム 大石 幸



聖ルカホームは移転から八年が経ちました。ご利用者も職員も、新しい環境での生活に慣れ

毎日が穏やかに過ぎていきます。しかし、真っ白だった建物も徐々に汚れが見え時間の経過を感じます。樹木の手入れも悩ましい事の一つでありました。剪定期を逃すときれいに花は咲かず、除草をしなくては木が育ちません。広い敷地の管理を持って余してありました。そんな中、法人との話し合いを通して「ご利用者や地域の方々の憩いの場所にしよう」ということになり、花壇の整備が実現しました。

公道から敷地に入る場所は、看板も立替え、憩いのベンチも設置いたしました。建物玄関前の花壇は、タイルや敷石、大きな植木鉢なども使

い素敵な散歩コースになりました。「きれいな花が咲いてるね〜」「この花はなんて花？」など散歩中の会話も増えました。また、隣接する通所施設の「真菜」や「花もも」のご利用者も観賞され楽しんでくださっています。花壇の一部には『自動散水』の装置も付けましたので水やりは助かっています。また、ご利用者と一緒に花を植えるスペースも確保しましたので、私たちが教えていただきながら育てていきたいと思えます。

この花壇をきっかけに、多くの方々が気軽にたちよれる場所となり、聖ルカホームや真菜、花ももが地域に愛される開かれた施設となれるよう努力してまいります。季節の花々と、たくさんの方々の笑顔が咲きほころぶ場所にしていきたいと思います。

(施設長)





# 歩みのあと

(9月1日〜10月31日)

## ●全体的なこと

●9/2(金) 主任等研修。講師吉浦輪先生。利用者に関わる事例検討会。26名参加。

●27 管理者研修。講師出島誠先生。支援に対する基本姿勢①24名参加。

●30 新人オリエンテーション。礼拝は浜田耕三牧師。12名参加。

●個別のコース  
●(法人)10/19 静岡福祉大学で奨学金制度の調印式。長澤理事長他参加。10/22 就職セミナー(30名)に参加。10/24 杉山会計による月次監査。

●(垂穂寮)9/16「自閉症スペクトラム症の人々への支援の方法」。講師は静岡福祉大学木下寿恵教授。改めて支援を振り返る。10/1 秋祭り。ポップコーン、行事ランチに満腹。おみこし、盆踊り(炭坑節)で秋祭りを満喫。10/31 ハロウィンイベント。お菓子を食べ、紙芝居くじ引きと、いもと逢う時間を通り越す。

●(みきわ)10/25 施設タよりの送付。10/21 防災訓練、利用者引き渡し訓練を行う。

●(野ばら)10/8 秋祭りでデュオ・メロマーネによる、ヴァイオリン演奏をきく。10/27 絵画教室。エンジョイプランでは小グループで蓮華寺池公園へ外出。

●(やまはと希望寮)9/23 台風15号による、床上浸水、土砂災害があり、1階で生活している利用者も2階へ大事に至らず通常生活へ。10/26 キッチンカー来寮。ハンバーガー、クレープを食へ、皆さんとても喜ぶ。

●(わかばもぐら)9/23 台風による浸水被害等はなかったが、施設脇水路、隣接する斜面が一部崩壊。施設正面の道路に水が溢れ、一時的に身動きが取れなくなる等の状況が確認された。

●(花もも)9/30 移転後初めての運動会。缶コロレ、玉入れなど大盛り上がり。10/14 ぼっぼさんの読み聞かせの掛け合いに皆さん大喜び。

●(カザプランカ)9月も猛暑日が続く

熱中症対策も考え、休憩時にはアイス等冷たいものを提供。  
●(希望の家)9/29 ポップチャーム。4チームで、協力:応援し合いチーム。ワーク力を高める。10/31 ハロウィンイベント。カボチャのランプにお菓子を詰め込み、お手製のデコレーションプリンを美味しくいただく。  
●(ふれあい)9/16 島田市歯科衛生士の方々によるブラッシング指導。歯石等の付着が多く、その後「久しぶり振り」に歯医者へ行ったこと言う人も。10/28 ハロウィン輪投げ大会。チームに分かれて、大盛り上がり旅行にいけないので、この地のお土産を景品にする。秋の「馳走弁当」を味わう。  
●(なのはな)9月、10月ウオーキングを兼ね、横井町クリーン作戦に全員参加。その後茶話会。  
●(あさがお)9/20 青野先生のリフレッシブ体操。作業のこりをほくし、心も体もリフレッシュ。  
●(Wooやまばと)パン作り、お菓子作りを行い、仕事に対する意欲、楽しさ感じられた。10/29 もちつき後、ウオーキング。秋風を満喫していい日になりました。

●(マモス)9/16 中秋の名月について学び、お饅頭を頂く。10/19 泉動物愛護協会の協力で、犬とふれあう機会。怖がっていた方も仲間が触れるのを見てチャレンジ。10/28 クレープのキッチンカー来訪。手作りチキレットで好きなクレープを購入。また食べたいと好評。その後は恒例の仮装アクトセッション。  
●(かたくりの花)10/11 13 個別外出。御前崎中原庚申堂の湧き水場。お弁当も楽しむ。10/14 クッキング。さつま芋、もも、あんこを作り、生クリームたっぷりの「スィーツ」最新作り、作り方の説明に耳を傾け、真剣な表情であんこをこねていました。10/31 ハロウィンパーティー。仮装を楽しみ盛り上がる。  
●(さくら)10/21 牧之原ゆうゆうランドへウォーキング。秋空の下、仲間とウォーキングやレクリエーションを楽しむ。山中にある大きなローラー滑り台を楽しみ、ボール遊びをし、おにぎり弁当を輪になって食べ、久しぶりの外出を満喫。

●(マーガレット)9/12 十五夜行事でおやつ作り。感染対策を行い、フルーツを包丁でカット、シフォンケーキにトッピング。「美味しかったよ」と嬉しいう声。10/31 ハロウィン。秋晴れの中、前庭にてデイキャンプ。キャンプテント、基設置、恒例のレタスクラブの歌とダンス披露。デイタイムはテントやテーブルの中。楽しい時を過ごす。  
●(レタスクラブ)9/19 わかぶじスポーツ大会 & 全国障害者スポーツ大会が3年ぶりに開催。島田市ロデオアリーナ卓球会場へ3名参加。それぞれ真剣に試合に臨み、2名が惜敗、1名が全勝。10/31 ハロウィン。仮装で「マーガレット」訪問。金髪かつら、ちんぷルマ、とんがり帽子等を身にまとい、リズムに乗って「マーガレット」に登場し、利用者職員全員でパレードを楽しんだ。

●(生活支援センターやまばと)実習生が牧之原市相談支援部に参加(9/3)。  
●(聖ルカホーム)9/4 地元消防団による施設見学会と情報交換会。「それでも」歩いて、「読み合わせ」  
●(グレイス)10/16 お誕生日にグレイスの生活をスタッフと共に振り返り、思い出話をしながらアルバム作り。10/17 ネット合同体操。広い空間で体操をしてリフレッシュ。最後は甘酒を頂いて、10/26 昔懐かしいカップラーメンを提供。好きな味を選んで、お湯を注ぎ、スプーンまで飲みほして堪能。  
●(相寿園)ご利用者が植えた2本の酔芙蓉が花をつける。朝は白、昼間はピンク、夕方には紅色に変化し、翌朝には散ってしまう珍しい一日花。「白い、白い!」「赤い、赤い!」と話題沸騰。10/18 「ヤクルト健康教室」開催。人間の腸と大腸を合わせた長さ(テニスコート2面(外側)程度)あるというお話に「ワウ!」。「形の良いウンチの帽子をかぶり、腸を健康にして長生きしよう」と楽しく勉強。  
●(ぎんもくせい)9/13 指定管理者評価事業実施。6人の委員によるヒアリングを受ける。10/15 保証人会実施。14組22名参加。同伴外出の希望を伺ったが、無し。久しぶりの面会に喜ばれた方が多かった。  
●(真実)真菜リンピック開催!曜日ごと

種目を決め、応援用の旗も手作り。種目はポップチャームやラインドサッカールなど。手作り昼食では、山菜五目になり、お吸い物を用意。「お稲荷さんは大好物だよ!」と喜ばれました。  
●(さくらん)「それでも」一緒に歩いていく「読み合わせ」。ご利用者の情報や状況を覧表にし、情報の共有を図れる様式を作成。  
●(シャローム)状況に応じて話を聴く時間をいつも以上に多く持ち、思いに寄り添う支援を心掛けた。ご家族の求めに応じて、グリーフケアの支援などを行う事もあった。  
●(ぶどうの木)敬老会にて全員に手作りの煎餅と百年餅をプレゼント。長生きサンバを歌い、職員は変装し利用者へ手作りの太陽をもって「真つ赤な太陽」を一緒に踊った。

寄付金	指定寄付金	合計	
4月~9月	2,990,292	0	2,990,292
10月	375,000	0	375,000
計	3,365,292	0	3,365,292

※ 2022年度より、機関紙代収入は計上していません。すべて寄附金収入として、計上しています。

●(ボランニア活動)★活動者名(敬称略順不同)個人 内藤さき、松浦愛子、鈴木久美子、井部博美、殿村隆夫、大塚、小嶋大石節子、大石原美紗子、田中恵子、鈴木雅子、石神美紗子。  
●(若木造園)庭の草木の手入れと草刈、除草剤散布、JA婦人部とどんぐり(ウツバ切)、さくら会(ゴミ出し)、日赤奉仕団(施設周辺草刈り)、消費者協会(講演・寸劇)。  
●(アケセンターマーガレット)清流館高校2名、10月19日、20日  
●(聖ルカホーム)静岡福祉大学2名、8月15日、9月15日、29日  
●(相寿園)8月29日、10月31日  
●(やまはと希望寮)10月19日、20日  
●(静岡福祉大学)2名、8月15日、9月15日、29日  
●(清流館高校)2名、10月19日、20日  
●(聖ルカホーム)静岡福祉大学2名、8月15日、9月15日、29日

●(アケセンターマーガレット)清流館高校4名、10月13日、14日、19日、20日  
●(ワークセンターなのはな)島田看護専門学校4名、10月18日、19日、25日、26日  
●(ワークセンターコスモ)島田看護専門学校3名、10月18日、19日  
●(あとかぎ)☆山野 貴彦氏は、立教大学の講師で聖公会神学院教師でもいらっしゃいます。  
☆表紙の写真はアケセンターマーガレットのご利用者。習字の時間にのびのび筆を運びました。  
☆すみこの石コンサートは今回で最後になります。ご都合のつく方はぜひご出席ください。(↑)

**第50回 すみこの石コンサート**  
 二〇二二年 12月16日(金) 18時  
 日本基督教団 霊南坂教会 1Fホールにて。  
 港区赤坂1丁目14番3号  
 (地下鉄・南北線六本木1丁目から徒歩5分・銀座線溜池山王から徒歩6分・日比谷線神谷町から徒歩8分)  
 (お問合せ) Tel 〇八〇一三四二二一六九九